

令和5年度

大俣小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①自己決定の場を設けた、児童が主体的に学ぶ授業づくり
- ②よりよい生活・学習習慣の確立

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算の練習には真面目に取り組む児童が多い。 ●学習したことの定着に個人差が大きい。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それらを活用することができる。 ・既習事項を、新しい単元の学習に活用することができる。	・音読、視写・聴写、日記、作文、「言葉辞典」作成は、これまでの方法を精査しながら、継続して行う。 ・小テストや補充プリント、ICT機器等で既習内容を振り返り、児童の理解度を把握しながら定着を図る。		・学年に応じた取り組みを行うことができたが、視写プリントは文章量が多すぎた。「言葉辞典」作成は取り組みに学年差があった。 ・既習内容を振り返りながら授業を行ったが、個人差が大きく、個別対応に時間がかかった。	タブレットを活用するなど、個別最適な学びを推進する。同時に身に付けた知識等を実際に活用できるよう、主体的・対話的で深い学びを推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり話したりすることに意欲的な児童が増えてきている。 ●これまで身に付けた知識や技能を生かして新しい学習に応用したり、友達と対話する中で考えを深めたりすることに課題がある。 ●表現する内容が乏しい。	・既習内容を活用したり、進んで調べたりして、学んだことを広げ深めることができる。 ・友達の発言を最後まで聴き、自分の意見と比べたり質問したりすることができる。 ・友達がもつと聴きたくないような内容を話したり、表現したりすることができる。	・ペアやグループでの学習を多く取り入れ、多様な考えを引き出す発問を工夫する。タブレットなどのICT機器、ホワイトボードなどを活用し、他者の考えと比較・関連づけをさせる。 ・すべての授業に言語活動や自己決定の場を意図的・計画的に取り入れる。 ・学習会を充実させる。 ・内容を考えるときに5W1Hを必ず入れるように伝えたり、児童の表現や内容で良いと思うことを他の児童に知らせたりする。		・ペア・グループ活動の機会は適切であった。ホワイトボードやタブレットで自分の意見を伝えることができたが、他者の意見と比較・関連づけが不十分だった。 ・言語活動は意図的・計画的に取り入れたが、自己決定の場を全ての授業では取り入れられなかった。 ・話し合い活動の充実が見られた。 ・児童の表現で良いと思ったところは、教師が伝え、他の児童もすぐに取り入れ使用することができた。	思考ツールを使って学習することで、児童の思考力・表現力を育成する。考える際の中身やプロセスを可視化できるツールでもあるので、協働的な学びとなるよう効果的に活用する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や、指示されたことには一生懸命取り組むことができる。 ●教師の指示を待つ傾向が見られる。 ●自主学習が充実していない。	・自ら学びに向かおうとする。 ・自己の課題に気付き、その解決に向けて方法を考え、根気強く取り組むことができる。 ・家庭でも自ら進んで学習することができる。	・児童自身が自己決定する場を意図的・計画的に設ける。また、それによって、充実感や達成感をもてるような振り返りをする。 ・児童が学びたいような課題の設定や発問をする。 ・家庭学習の手引きを配布したり、家庭読書の日を保護者にも周知したりする。		・自己決定の場を設けることができない場合や、振り返りの時間が十分とれない時があった。 ・課題設定や発問の工夫ができないことがあった。 ・家庭学習の手引きの配布、家庭読書の日の周知はできたが、それを基にした取り組みは十分とは言えない。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進める。児童の興味・関心、途切れることがないように導入を工夫したり、タブレットを効果的に活用したりする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

